

- ご挨拶 1
- 国会報告・委員会報告 2~3
- 活動報告 3
- 支援者の声 4
- 応援しています トリニータ
- ドクター足立のワンポイント医学
- お知らせ
- 編集後記

『足立信也と安心な日本を創る会』 <http://www.adachishinya.com> E-mail: info@adachishinya.com

ご挨拶



実りの秋を迎えて何かとお忙しいとは存じますがいかがお過ごしでしょうか。去る第44回衆議院総選挙におきましては皆様方

に多大のご支援を頂きありがとうございました。おかげさまで、民主党公認候補は第1区吉良州司氏・小選挙区勝利、第3区横光克彦氏・比例当選を果たし、さらに推薦候補の第2区重野安正氏も比例当選を致しました。全国的に民主党が大敗を喫する中、大分県におきましては議席を増やすことができました。改めまして御礼申し上げます。

今回の総選挙の総括として現段階での私の感想を2点述べたいと思います。

1 点目は民主党が政権を担いける政党として認識されなかったこと。

2 点目は郵政民営化法案は国民から賛同を得たわけではないということです。

1 点目は比例票に端的に現れていると思います。自民2389万票(35.2%)、民主2104万票(31.0%)でした(総数6781万票)。原因は途中で軸がぶれたこと、国民感情を共有できなかったことです。

2 点目は小選挙区票で郵政民営化法案に賛成議員の得票3358万票(49.3%)、反対議員の得票3449万票(50.7%)でした(総数6807万票)。それなのに議席数は227対73です。つまり国民の過半数は郵政民営化法案反対議員

に投票しているのに、議席は賛成議員が3倍以上多いのです。

問題点はここからの解釈です。国民は郵政民営化法案の賛否に関係なく、これからの政権を託し得る候補者・政党に票を投じました。にもかかわらず、小泉首相は議席数の差で国民は郵政民営化法案に賛成したと言っています。これは解釈のすり替え、詭弁です。そして自民党参議院議員の多くが議席数の差を理由に反対から賛成に変わろうとしています。これも解釈の誤りであり、確かにイエスマンへの第一歩です。さらに最大の問題はメディアがこの正当な解釈を報じないことです。

興味ある文章を見つけました。

「日本人のもつ、どうにもならない特性の一つが時流に対する過敏さということである。それが時流だと感ずるや、なにが正義か、なにが美か等の思考はすべて停止し、人の行く方角に向かつてなりふりかまわずに駆け出してしまう。このため、いかなる変革期も片付きが早い、しかし、あらゆるものがブームである。そのブームの中で暮らしていなければ精神の安定が持たない。」ブームの種は今、テレビ、新聞、週刊誌がこぞ提供しています。彼は、この国は相当な奇国であると結んでいます。

この文章は私の尊敬する司馬遼太郎が昭和42年9月に書いた「軽薄へのエネルギー」からの抜粋です。まるで今回の選挙の分析のような気がします。初めて投票所へ足を運んだ若者だけの問題ではなく、日本人の持つ特性であるならば、ブームを作ることが最大の選挙戦略かもしれせん。

さて総選挙の大敗を受けて、民主党執行部は総辞職をし、代表選挙を行いました。臨時の代表選であるため、両院の議員のみの投票を行うこ

とになりました。しかし、通常の代表選では民主党員・サポーターにも投票権があるので、大分県内の民主党員・サポーター・個人の支援者に電話で意見を聞きました。候補者名を明言された方は前原氏101名、菅氏91名で、そのうち党員・サポーターは68名対58名でした。私も前原氏に1票を投じました。

両氏の各3回の演説を聞いた感想はやはり、守りよりも攻めのほうが強いということです。「改革への抵抗勢力」という間違ったレッテルをはがし、更なる攻撃に耐えるためには安定した力が必要ですが、それでは改革政党の旗印を奪い返すことはできません。民主党はどのような社会を目指すのかを明示しなければなりません。

大きな政府

小さな政府という表現が気になります。今

「小さな政府

＝無駄の無い

効率的でスリ

ムな政府」と

いう誤ったイ

メージが国民

に植え付けら

れてしまっ

ていると思

います。小

さな政府

府とは税や

保険を縮小

医療・年金

などの社会

保障や子育て

・教育などを



第44回衆議院総選挙

はなく、国民の自己責任において民間で運営するということでしょう。民営化路線と増税路線が同時に進行することは矛盾です。戦後、自民党政治は依存と保護・分配を繰り返しました。バブルの崩壊後それが一気に市場経済原理主義に走り、自己責任を求め、自立・自律の個人主義です。市場経済原理主義や規制緩和は貧富の差二極化を必ず助長します。少子高齢社会だからこそ、自立を目指しながらも

社会の安心感のため共助の精神が何より必要になってくると思います。公益性のあるものは社会の安心感のためにも市場経済に委ねてはいけないと私は思います。臥薪嘗胆の時期は野党に徹して無駄遣いの追及を行い、来るべき時は高福祉中負担を標榜し、市場経済主義にとらわれない部分は何か、を対立軸にすべきだと私は思います。

参議院議員 医学博士
足 立 信 也

国会報告・委員会報告

は、突然の衆議院解散により閉会となったため、廃案となった。

厚生労働委員会(2005年5月19日)

「介護保険法改正案(1回目)」

厚労省が主張する改正の理由は、「要介護度1の人達向けのサービスに問題があり、状態の悪化を招いているので、内容を変える必要がある」というものであったが、「データから見ると「要介護度1」の人達の重度化率は他の要介護度の人達よりも低く、改正の根拠が無いことを指摘した。これに対し厚労省は合理的な反論が出来なかった。

医師としての専門的見地から、厚労省が行った介護予防モデル事業は手法に誤りがあるため正しく効果を評価出来ない点があることを指摘し、厚労省側もそれを認めた。

要介護状態になる前に、介護が必要となりそうな高齢者を見つけ出し、予防を行

うしくみについて、その矛盾点を指摘し、正しいやり方を示唆した。

厚生労働委員会(2005年6月13日)

「介護保険法改正案(2回目)」

介護に携わっている医師や、高齢者への筋力トレーニングで効果を上げている大学教授などを参考人として招き、質疑を行った。

介護予防における医師の関与の重要性や特養ホームにおける医療提供体制の不備について議論した。

高齢者への筋力トレーニングについては、個別プログラムを組む事や継続する事の重要性及び要介護状態の人達へ行った場合の有効性などについて質問した。

厚生労働委員会(2005年6月14日)

「介護保険法改正案(3回目)」

介護予防モデル事業のデータを独自に解析し、その結果、状態の悪化を防止する効果が見られないことを明らかにした。厚労省は、「まだ解析の途中なので、この(足立議員が示した)結果も参考にして作業を進める」と回答した。

新たな事業体系への移行は2年以内と定められているので、自治体により移行時期にズレが生じ、市町村合併や引越越しの際に、受けられる介護サービスの内容や限度額が変わる可能性がある。この点に関して、要介護者に混乱や負担の増加等が起きないよう経過措置をとることを主張し、厚労省も考慮する旨回答した。

介護が必要となりそうな高齢者に対し予防を行う事業について、「できるだけ多

くの人を拾い上げる」という考え方と医師の関与の必要性を主張し、改正案にはそれが抜けている点を指摘した。

言語聴覚士は高齢者ケアに関して非常に重要な役割が期待されているので、介護保険制度の中での活用をもっと図るべき、と例を挙げて主張した。

厚生労働委員会(2005年6月16日)

「介護保険法改正案(4回目)」

特養ホームでの、ノロウイルス感染による死亡事故は医療提供体制の不備が原因ではないかと指摘し、今後の対策について質した。大臣は至急対策を講じる旨回答した。また、同じく医療提供体制の不備により利用が進んでいない訪問看護について、改善を要求した。

ケアマネジャーが医師等の関係者を集めてケアカンファレンスを招集するのは非常に困難なので、行政担当者が行うべきであると提言し、大臣から行政が支援



する旨回答を得た。

市町村が要介護者の個人情報把握し、災害時の救出・援助に資するべきと提言した。

最後に、介護保険の対象となる脳疾患の範囲について質問し、どのような線引きをしても矛盾が出るという厚労省の回答を踏まえ、問題解決のためには被保険者の範囲の拡大が必要と示唆した。

■厚生労働委員会(2005年7月28日) 「障害者自立支援法案」

まず、本法案に、発達障害・難病などの、いわゆる「谷間の障害」が含まれなかった点を指摘し、障害程度区分判定に発達障害を判定する項目を入れることや児童デイサービスにより地域で発達障害児を見守ることを提案した。

次に、18才未満に保障されている児童デイサービスの小学校卒業時打ち切り問題について、質問主意書を提出することにより18才になるまで利用可能となった経緯を説明した。そして、サービスの利用者(障害を持つ本人を含めた家族)が必要とするサービスを利用者中心に提供することが大切であると説いた。

法令改正により小児慢性特定疾患制度の対象に含まれた外科的治療が、厚労省が事務連絡として出した「Q & A」で対象から外されていることについて追求した。また、同制度において重症者の自己負担が無いことを例にとり、障害者自立支援法においても、障害の重さに着目した負担のあり方を考えるべきと主張した。

K社の若手社員技術研修会で講演

6月18日(土)、プロジェクターを使用して国会の仕組みや法案の決まり方をわかりやすく説明した。



地元「大南地区」に全戸、新聞配布

6月19日(日)、支援者約70名の参加をいただき、各ブロックに分かれShin-ya新聞Vol.4を全戸約9,600軒に配布しました。(ご協力ありがとうございました)



活動報告

災害視察(九重・筋湯・大岳)

7月12日(火)、16日(土)に襲った集中豪雨で被災した玖珠九重地区を梶原県議と視察しました。玖珠九重地方振興局川野次長の説明を受け早急な対応をお願いしました。



自衛隊イラク派遣壮行会で挨拶

7月24日(土)陸上自衛隊別府駐屯地内で、イラク人道復興支援群派遣壮行会で挨拶をしました。県内から別府駐屯地で約50名、玖珠湯布院駐屯地で10名、総勢約60名が参加するそうです。任務の遂行と無事帰還を祈ります。

屯地第7次イラク人道復興支援群壮行会



ギネスに挑戦「全市いっせীগみ拾い大作戦」に参加

8月7日(日)朝7時、自宅を出発し地元大南地区(影の木、上り尾)公民館にごみを持っていき、来た人の労をねぎらった。その後、本部のある大手公園で挨拶をした。

達成...147,410人



障害者自立支援法緊急反対集会

10月1日(土)午後1時30分より大分県総合福祉会館で「本当の自立支援に必要なこと」と題したシンポジウムがあり、法案の反対を訴えた。



支援者の声

「内助の功」

9月11日に第44回衆議院総選挙が施行されましたが、結果は国民の期待とは裏腹に小泉自民党大躍進、岡田民主党大敗となりました。今回の選挙は、小泉さんのパフォーマンス性がマスコミ等により強調増幅され、そのことだけが目立った結果であり、中身においては、民主党は決して負けていない選挙であったと思います。その証拠に大分県では、民主党公認2名と推薦1名の全員が当選を果たしています。今回の選挙を教訓に、どんなことがあろうと動じるのではない様、足元をしっかりと固めて、一步一步着実に進んでいけば、近いうちに政権交代を果たすことができると信じています。それまで私たちもしっかり応援をしていきます。頑張れ民主党！

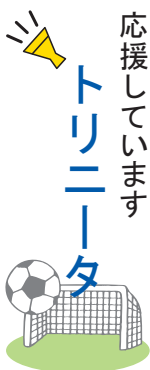
さて、話は変わりますが、議員の家族は大変だとお聞きします。特に奥様は。頭を下げたり、挨拶をしないと偉そうにしていると言われるようですし、ご主人を思っただけで色々と出て行くことと出しゃばっていいと言われるようで、目に見えないところで本人以上に苦労をしているようです。ある政治家の奥様は、「私は積極的過ぎて、いつも失敗して、よく主人に怒られるんですよ。でも、人のため、家族のため、主人のためと思うとへこたれず頑張るんです。近頃は、年をとったせいか自分の老後のためとも思っているんですよ」とこやかに言われていました。こんな素晴らしい奥様だからご主人も政治家として頑張れるのかなと思いました。

信也さんの奥様の菜穂美さんも右も左も解らないまま、同じようなご苦労をされているものと思います。信也さん、内助の功に感謝して、支援者の声ばかりでなく、奥様の声の時にも聴いてあげてください。ご自愛の上、国会でのご活躍されますことを祈念いたします。

(Y.K)

応援しています

トリニータ



野球少年だった足立が、トリニータサポーターにまでなったのには、息子の存在があります。小学校でサッカーを始めた息子の試合には、時間をやりくりしては必ずかけつけ、小6の時、アントラーズ杯で決勝に残り、用事で帰ったコーチに頼まれ臨時コーチを引き受けた程です。その息子も独り暮らしを始め、相変わらずサッカーに興じております。私達はと言えば、応援の対象が次第にトリニータへと移っていきましました。つくばでは鹿島や柏が近く、トリニータTシャツを着て応援に行っておりまして。今は、土日に時間をやりくりしてはホームゲームを楽しんでいます。後は、私と一緒に「トラブトリニータ」って歌ってくれれば申し分無いのですが…。

足立菜穂美



委員会変更のお知らせ

- 委員会 ● 環境委員会、行政監視委員会
政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会
- 民主党 ● 組織委員会副委員長
参議院国会対策副委員長
厚生労働部会医療改革担当事務局長
民主党大分県連特別代表
- 学 会 ● 胃癌学会評議員
外科学会指導医
消化器外科学会指導医

ドクター足立の ワンポイント医学



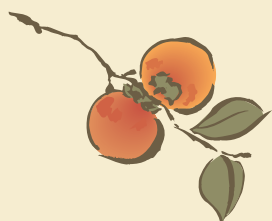
●BMI (body mass index) 日本語で体格指数
体重(kg)÷身長(m)²で算出します。例えば身長170cm、体重65kgの人は65÷1.7÷1.7で22.5となります。18.5未満はやせすぎ、18.5から25は標準、25から30は肥満、30以上は高度の肥満です。25を超えるといわゆる生活習慣病の発病率が高くなり、25以上では高血圧、27以上では糖尿病、29以上では高コレステロール血症が多くなります。標準値は22.0といわれ、この数値が1番病気にかかりにくいとされていますが、統計的には30以上が最も有病率が高く、次が20未満、最も有病率の低いのが21から22といわれています。ちなみに私は22.3です。

編集後記

先般、「家庭の教育力」という内容で、大分県教育センターの佐藤敬子先生の話を聴く機会がありました。その中で、「家庭で子どもの話をきく」には、「聞く」「訊く」「聴く」の3種類があり、「聞く」はただ聞こえている、「訊く」は問い質す(責めている)、「聴く」は何回も心から耳を傾けているの意味があると言われていました。これは、親子に限らず私たちの日常生活での人間関係をつくる上でも大切なものではないかと思えます。

さて、貴方の「きく」はどれでしたか。今一度、自分の「きく」を見つめ直してみませんか。

(編集委員長)



お知らせ

個人会員募集

個人会員を募集しています。

(年会費 ¥5,000)

事務所の運営費・Shin-ya新聞の発行費・集会費等に充てます。皆様の入会をお待ちしています。

ミニ集会見て聞いて知っちゃくれ)
開催のお願い

足立信也を知っていただくためのミニ集会を計画しています。
少人数でもかまいません、ご協力いただける方は、大分事務所までご連絡ください。